



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://sanchurch.jp/>

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
 TEL/FAX: 03-3418-4933
 発行：三軒茶屋教会 広報部

第42号 2011年8月発行

今年度の教会標語は、「キリストにゆだねる」を掲げています。ペトロの手紙一の4章19節「だから、神の御心によって苦しみを受ける人は、善い行いをし続けて、真実であられる創造主に自分の魂をゆだねなさい。」から定めました。多くの人々に大きな衝撃と傷をもたらし、東日本大震災の惨禍が念頭にあります。自分の意志や願いに反して、凄惨な災いによって失われてしまった魂。この悲惨な現実を、生きていく私たちはどう受け止めたいのかを考えたのです。しかし「真実であられる創造主に自分の魂をゆだねなさい」との勧告をすぐ確実に実行に移すのは容易ではありません。

キリストにゆだねる 東日本大震災をとおして 牧師 伊藤英志

たのか。残された人々が受ける苦難は何のためなのか。そこに答えを見いだそうとする人々が、大勢出てきています。科学的見地から、人為的な誤りによるという見地から責任を問う。想定外という言葉で説明しようとする人もいます。「これは天罰である」と言い切る人までいました。すでに起こってしまった出来事に対するこうしただの答えも、人々に癒しを与えることにはないでしょう。人々に健やかな平安と勇気をもたらすことにはならないでしょう。再び立ち上がろうとしている人々の支えになるとは思えません。なぜなら、そこでは「善い行い」とその行いをなさんとする「魂」について語られていないからです。多くの死者・行方不明者と消えてしまった町の様子は、確かに私たちの魂から力を奪ってしまふほどの強い衝撃でした。原子力発電所の事故による影響は、限らない不安と抑えたい怒りを人々に生じさせました。5か月以上が過ぎた今はどうでし



よう。多くの人々が悲しみや怒りや不安を乗り越えて、「善い行い」をなさんとして動き始めています。その手段や方法には問題や課題があるかもしれませぬ。しかし、「善い行い」を自分の意志で無償でしたいと願う人たちが海外からも馳せ参じています。自分を犠牲にして苦役を負うのをいとわぬ人々が現れています。そうした中で少なくない人々が、自分を何かにゆだねています。今を生きる自分の魂は「善い行いをするためにある」と気付いています。自分の魂を自分が望むように守ろうとする人は、「善い行い」に向かつて一歩前に踏み出すことは難しいでしょう。そもそも、「自分の魂」が何のためにあるのかを確実に知るすべを、人間ははじめから一人でも持ち合わせていないのです。今回の大地震は、今生きている人々が、自らの魂とどう向き合うのかを、立ち止まってよく考えてみる機会をもたらしています。受けた苦しみが、国境を越えた喜びにすら変わっていく。それは、変化をとげるべき日本という国を大きく支える確かな力となるかもしれないのです。